

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年10月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202023
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティこもれび
所在地 (電話番号)	静岡市葵区大岩4-34-17 (054-247-2916)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年7月29日

【情報提供票より】(平成21年07月14日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年10月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人/ 非常勤7人/ 常勤換算8人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り 2階建ての 1階～2階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥65,000	その他の経費(月額)	18,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 65,000円	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4)利用者の概要(平成21年07月14日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	7 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	84.4 歳	最低 72 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	静岡厚生病院 ・ 勝又内科医院 ・ つかもと歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の共通理念「街の中、暮らしの場」に相応しく、蟬の音が聞こえ、背後には緑豊かな山や畑を望む閑静な住宅街に位置し、近くには国道1号バイパスや麻機街道が走る立地条件に恵まれた環境の良いホームである。近くに買い物のできる商店や外食に立ち寄れる場所があり、利用者の要望にすぐに対応できることから、外出も頻繁に行われている。自主防災の訓練に地域住民が参加したり、野菜を持ってきてくれたり、犬の散歩の途中で寄ってくれたり、地域との連携も活発である。落ち着いた雰囲気とホーム長はじめ利用者、職員ともに笑顔が印象的なホームであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の指摘5項目のうち、地域密着型サービスとしての理念・事業所の多機能性を活かした支援・栄養摂取や水分確保の支援については改善されていた。運営推進会議を活かした取り組みは開催頻度に、同業者との交流を通じた向上は職員の参加に課題を残した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は自己・外部評価の意義を十分に理解しており、今回の自己評価票作成にも全員で取り組み、1・2階ユニットの特徴を的確に把握しており、意欲的な取り組みの姿勢が見られた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族や地域の人達の本音を聞く絶好の機会と捉え、有効に活用している。これまでの会議では、ホームの状況報告・回覧板の取り扱い・相互の行事への参加・防災訓練等について話し合わせ、地域密着・サービスの向上に活かしている。しかし、開催回数が少ないようである。今年から始まった「麻機・千代田 圏域会議」と組み合わせ、2ヶ月に1回着実な開催になるよう期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、何時でも家族等の意見を聞く体制にある。訪問時には必ず声をかけ、希望や要望を聞き、運営に反映させている。定期的に「こもれび新聞」でホームでの生活の様子を写真に撮って報告し、一人ひとりについては、月に1度手作りの便箋に本人の様子や預かり金の収支についても報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームには珍しく、町内会の組長を経験した。回覧板で地域・ホーム相互の行事を紹介し合い、触れ合い花壇・健康祭り・夏祭り・山の神祭り・廃品回収・防災訓練等の行事に相互に参加し合い、地域との交流が図られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型になり、それまでの理念に地名を入れ、「大岩の街で 心やすらぐ あたたかな 陽だまりの家」という独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で決めた理念を、支援日誌の表紙・玄関・食堂・事務所に掲げ、共有・実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の組長を経験し、ホームが益々町内に浸透した。回覧板で地域・ホーム相互の行事を紹介し合い、触れ合い花壇・健康祭り・夏祭り・山の神祭り・廃品回収・防災訓練等の行事に相互に参加し合い、地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己・外部評価の意義を十分に理解しており、前回の指摘項目には、前向きに取り組んでいた。今回の自己評価票作成にも全員で取り組み、1・2階ユニットの特徴を的確に把握し、意欲的な取り組みの姿勢が見られた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の人達の本音を聞く絶好の機会と捉え、有効に活用している。これまでの会議では、ホームの状況報告・回覧板の取り扱い・相互の行事への参加・防災訓練等について話し合われ、地域密着・サービスの向上に活かしている。	○	今年5月から始まった「麻機・千代田 圏域会議」と上手く組み合わせ、2ヶ月に1回着実な開催になるよう検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の利用者の関係も有り、市担当者とは常時連絡・相談が行われている。包括支援センターも行政の一環と理解し、最近始まった「地域圏域会議」が上手く機能し始めており、楽しみである。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に「こもれび新聞」でホームでの生活の様子を写真に撮って報告し、一人ひとりについては、月に1度手作りの便箋に本人の様子や預かり金の収支についても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、何時でも家族等の意見を聞く体制にある。訪問時には必ず声をかけ、希望や要望を聞き、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は職員の安定に最大限の努力をしている。異動や離職に備え、定期的に職員のローテーションを行い、職員全員が馴染みの関係になり、利用者や家族に不安を与えない様に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修制度を活用し、OJT(実務を通じての研修)が行われている。また、社外研修に参加した資料を配布して勉強しているが、職員の参加機会が少ない。	○	職員の経験や資質に基づいたレベル分析を行い、できれば年間研修計画を作成し、「最低この人に今年はこの研修」が受けられるよう検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の交流の機会はあるが、職員の機会は少ない。	○	外部項目5で述べた「麻機・千代田 圏域会議」が年4回予定されているそうなので、それを上手く利用し、職員の参加も検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のアセスメントをよく理解し、本人や家族の意向を尊重し、できる人には事前の見学・お茶・食事等と共に、馴染みながら利用が開始できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から味付け・野菜の植え時や昔の知恵で現在に生かせること等を学び、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はどの利用者にも平等に声をかけるように努めている。耳の遠い利用者にはホワイトボードやジェスチャー等で本人の思いを上手に引き出そうとしている。「反応が良かったこと」をケース記録に記録し、毎日のカンファレンスで職員全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のなにげない話から本人の希望や家族から聞き取った情報などを基に、関係者のアイデアを盛り込み、個別に介護計画を作成している。作成した計画は個人記録と共にファイルし、いつでも内容が確認でき、変化や気づきに対応でき、計画に反映できるシステムになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3か月に一回の更新と毎月のカンファレンスの評価を計画に反映している。家族からの要望や利用者の心身の変化があれば、その都度カンファレンスを行い、計画に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊や食事の提供、付添のできない家族に代わり受診の付き添い等にも対応している。法人内の車両を借りるシステムもあるが、緊急時等にも対応できるように近所の介護タクシーとも契約を結んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の意向でかかりつけ医か協力医療機関のどちらかで受信するか話し合いを基に決定している。半分以上の方は今までのかかりつけ医にそのまま受診されている。往診までにはまだ至っていないが、インフルエンザの注射には協力医療機関の医師がホームに来てくれるようになった。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関しての指針や同意書は法人としての書式は作成され、要望があれば家族、医師、訪問看護と連携を密にして対応をしている。しかし、ホーム独自のマニュアルの作成には至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のケース記録、資料、金銭管理は事務所内のロッカーに施錠されて管理されている。申し送り時にも利用者の名前ではなくイニシャルで呼び、プライバシーに配慮している。職員の利用者への声掛けもやさしく、温かみの感じられるものであった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問した日に寿司の好きな利用者が「デートに寿司屋に行く」と言われ、気の合った職員に送って貰っていた。また、温泉の好きな方には近くの温泉施設に良く行っている。急な申し出にもなるべく付き添う等柔軟な対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に作っている畑から収穫してきたなすが、おかずとして出されていた。散歩の途中で畑から取ってきた南瓜をどのように調理して食べようかと話し合い、和やかな食事風景であった。メニューを考えたり食材を組み合わせたり、下拵えや片付けと、利用者と職員が一緒になって行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決めていないが、平均週3回の入浴を行っている。温泉の好きな方には近所の温泉施設へも頻繁に足を運んでいる。入浴拒否の強い方には足浴や清拭、ドライシャンプーで清潔を保てるように援助している。職員の声掛けで入浴回数が増えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸の好きな方や野菜作りの好きな方等、利用者個々の生活歴や特技を生かした援助をしている。自分で作った折り紙が居室や入口に飾られている。散歩やドライブ、買い物は日常行われており、イベントやお誕生会は計画を立て、皆が参加できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段は図書館や個人的には宝くじを買いに行ったり、玄関の施錠はされていないため自由に外に散歩に出掛けられる。ミカン狩りやさくら見学、菖蒲園など季節ごとの外出も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵は掛かっている。玄関のチャイムは、利用者からのみの外出、職員も同伴で外出、外からの訪問者と3つの音色で確認でき、利用者からのみの外出にはすぐに対応できるしくみとなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年防災センターに見学に出掛けたり、今年、ホームにおいて煙の流れを確認する訓練があり、消防署や地域住民も参加して防災訓練が行われた。来月にも合同訓練を行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部の栄養士がたてたメニューを参考にしたり、アドバイスを受けていたりしている。カロリーの過不足や栄養の偏りがないようにアドバイスの継続をお願いしている。利用者の摂取量は主食、副食、水分と別けて記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広々とした食堂、間接照明で温かみのある廊下等で、落ち着いたある共用空間であった。壁には利用者と職員とで一緒に作った折り鶴やあじさいが飾られており、見る者の心を楽ませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で馴染みのものが配置されていた。自分で作った折紙や季節の花で居室内を飾っていたり、カレンダーについている写真を壁に貼ったりと自分の好みで居室内が飾られている。掃除も行き届いており、清潔感があった。		